

医学研究センター

研究支援管理部門

小谷 典弘
(部門長)

1. 構成員

部門長 小谷典弘 (KOTANI Norihiro) : 医学部 生化学 : 准教授
副部門長 堀内 大 (HORIUCHI Yutaka) : 医学部 微生物学 : 講師
部門員 大竹 明 (OHTAKE Akira) : 埼玉医科大学病院 小児科 : 教授
森 隆 (MORI Takashi) : 総合医療センター 研究部 : 教授
佐藤 毅 (SATO Tsuyoshi) : 埼玉医科大学病院 歯科・口腔外科 : 准教授
町田早苗 (MACHIDA Sanae) : 医学研究センター : 助教

2. 目的

研究マインド醸成, 学内グラントの活用, 学外研究費獲得の推進, 研究成果の管理, リサーチアドミニストレーションセンターとの連携による研究倫理推進等により, 学内研究者の研究活動を支援する。

3. 活動報告

1) 学内グラントと研究奨励費の助成

2020年度学内グラント募集では, 丸木記念特別賞5件, 一般枠31件, 計36件の応募があった。そのうち1名が辞退したため, 最終的に35件の応募となった。分野別の複数の選考委員による予備審査の後, グラント選考委員会が開催され, 丸木記念特別賞1件, 一般枠23件, 計24件の研究テーマが採択された。さらに, 学内グラント採択課題(一般枠)が翌年, 翌々年度に科研費採択(研究テーマが直接関連していることが条件)の場合に対象となる研究奨励費(20万円, 購買経由の使用, 経費報告書必要なし)が計11件助成された。

2) 科学研究費獲得状況の把握

2020年度の科研費採択結果は, 申請総数187件(申請率13.33%)に対して, 新規採択39件(採択率20.86%), 採択総額201,110千円であった。申請総数・率, 採択率, 採択総額いずれも去年よりやや低い結果となった。今後, 学内グラント等の活用により, 申請総数・率, 採択率, 採択総額のさらなる向上を目指して支援を継続する。

3) 論文投稿報告書の管理

倫理審査の対象となった研究内容についての論文投稿に際し, 義務付けられている論文投稿報告書の提出は, 2020年度は117件であり, 2019年度(91件)に比較して26件の増加であった。例年では時期ごとに報告件数の大きな変動が見られ, 過去2年間は年度末に向けて報告件数が増加する傾向が見られた。2020年度は, 時期ごとの大きな増減は見られず, いずれの時期においても報告件数は例年より多かった。なお, 倫理審査の対象となった研究とは, 大学倫理審査委員会, 保健医療学部倫理審査委員会, 3病院IRBで審査された案件に関わる全ての研究である。

4) 剽窃検知ソフト iThenticate の運用

論文作成では, 意図せず剽窃とならないように注意が必要である。近年の論文シデジタル化とインターネット普及を背景に, 平成25年施行の博士論文オープンアクセス化(公表義務)に伴って現在までに国内の半数近くの医学部を有する大学に導入されている剽窃検知ソフト iThenticate を, 研究マインド支援グラント(共通部門研究費)を用いて, 平成29年度から30年度にかけて試験的に運用を始め, 今年度も運用を継続している。2019年度から, 大学院学位審査の際の学位論文の提出にあたって, 本ソフトを使用した検知を実施することが義務化された。なお, 剽窃とは, 他の研究者のアイデア, 情報や成果等を当該研究者の了解もしくは適切な引用なく発表することであり, このような研究不正が発覚すると著者個人だけでなく組織全体に信用失墜等の重大な影響が及ぶ。

5) 悪徳雑誌（ハゲタカジャーナル）への対応

助成を受けた論文に無料アクセスできるようにするべきであるというプラン S 等の国際的な潮流に伴い、著者側が掲載料を支払い読者側は無料アクセスできるオープンアクセス誌が増加しているが、誤って悪徳雑誌（ハゲタカジャーナル）に投稿しないように注意が必要である（日本医学会から注意喚起の通達が発行され、日本学術会議において対応策が検討中である）。これに関して、2018 年度より、論文投稿報告書にチェック項目を設け、英語論文投稿時は「投稿予定のジャーナルは PubMed に掲載されていますか?」「参照可能な優良出版社が運営するジャーナルですか?」等について確認するように注意喚起を行っている。

6) 新科研費アドバイザー制度

科研費採択率の向上を目指し、科研費の全種目を対象とした新しい科研費アドバイザー制度を今年度より開始した。リサーチアドミニストレーションセンターとの共同で実施し、科研費審査委員や大型競争的研究資金獲得経験のある研究者を中心に、43 名のアドバイザーが利用者の研究計画調書を個別に添削した。利用件数は 44 件で、種目の内訳は若手研究 21 件、研究活動スタート支援 2 件、基盤研究 (C) 20 件、挑戦的研究 (萌芽) 1 件であった。また、このアドバイザー制度において、アドバイザーから得たコメントは匿名化し、その一部をまとめたコメント集を作成し、「科研費研究計画書調書のためのチェックリスト」と併せて学内ホームページに公開した。

さらに、片桐センター長を講師として、「科研費 研究計画調書の書き方に関する eラーニング」、および「科研費 研究計画調書の書き方に関する講習会」を企画・実施した。Eラーニングの受講完了者数は 825 名（2020 年 10 月 2 日時点）、講習会参加者数は 51 名であった。講習会の内容は限定公開で YouTube 配信を行い、その視聴回数は 143 回（2020 年 10 月 5 日時点）であった。受講者アンケートでは、eラーニング・講習会は科研費アドバイザー制度の周知に役立ち、内容は判りやすく役に立ったとの回答を得た。

次年度以降も、より効果的で利用しやすいものを目指して「新科研費アドバイザー制度」をブラッシュアップし、本学の科研費採択率向上につなげたい。